白石製作所　2016年度事業実施報告書

１．事業の概要

団体名	認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ
事業名	埋もれた人財を生かすことによる常総市の災害復興：地域の国際化に寄与する人を育てるキャリアデザインセンター
目的	常総市において、公共サービス・教育機関・地域産業などにおける多言語通訳・翻訳ニーズへの対応を強化するとともに、日本人・外国籍両方の若者を多文化共生の担い手として育成するための機関として、キャリアデザインセンターを官民連携により立ち上げることを目指す。
背景	人口の６％超が日系ブラジル人などの外国籍住民である常総市では、2015年９月の水害以降、外国人世帯も含めた市外への人口流出が続いている。また、常総市で（生まれ）育ちバイリンガル人材になりうる若年層が、雇用の受け皿がないために市外へ流出してしまう現状もあることから、市外への人口流出を抑制し、こうした若者をバイリンガル人材として育成するための支援機関を立ち上げる必要がある。
実施期間	2017年１月～2017年３月
実施地域	常総市を中心とし、市内外の人財や機関とも連携
実施体制	４名（代表者含む）

２．実施内容と成果

（１）常総市で通訳をしている人財のヒアリングとネットワーク化及び通訳・翻訳ニーズを踏まえた通訳や翻訳を担う人材の育成プログラム開発

内容：外国人ピアサポーター・生活相談員養成講座を、行政と連携して全２回の講座として実施しました。

成果：講座には、既に通訳・翻訳の仕事をしている外国籍の方や、日本人住民でも外国籍住民のサポート経験がある方や、サポートを始めてみたいと考えている方が 17 名集まりました。講座の１回目では、実際のサポート内容や、講座を通じて知りたい事を共有したり、グループで意見交換をしたりしながら、常総市における通訳・翻訳のニーズや、それらへの対応方法などについて検討を重ねました。２回目には、前回の意見交換を踏まえ、常総市の外国籍住民や子どもの人口データや相談事例の紹介を通じて常総市の外国籍住民の現状を整理したあと、受講者の方々が実際にサポーターとして活動を始めるための実践的な研修として、外国籍・日本人住民のための交流サロンの企画を行いました。この交流サロンは、外国籍・日本人住民との交流だけではなく、生活情報や保険等の多言語情報の入手や相談の機会となることも想定しており、今後の継続的な実施に向けて、行政やサポーターと検討する機会を持つ予定です。受講者がサポーターチームとして今後も活動するための基盤づくりにもつながりました。

　また、受講者の意見交換によって、医療通訳のような専門的知識が必要な内容や、保険や免許等の資

格取得に関する内容についても外国籍住民やかれらをサポートする方々の需要があることがわかり、ピアサポーター・生活相談員に向けた人材育成プログラムの計画・実施の必要性が明らかになりました。（ピアサポーターの今後の活動に関する構想は添付資料を参照）

（２）公共サービスや地域産業における通訳・翻訳ニーズ把握と多言語化支援サービスの事業開発
内容：
①行政に向け、質問票形式にて保育のニーズ調査を実施しました。
②外国人を多く雇用している地元企業との意見交換の機会を設けました。

成果：
①外国籍の子どもも含めた、常総市における保育の現状が明らかになりました。外国人対応の民間小規模保育実現に向けて、行政や保育事業所との調整を進めながら、保育事業所や利用者側へのニーズ調査（質問票、インタビュー）を実施予定です。
②地元企業との意見交換を経て、企業側のニーズに応じた従業員へのキャリア教育プログラム（年間 4 時間）の実施が決定しました。今後、他の事業所にも対象を広げることを目指します。当プログラムの実施と並行して、地域産業における通訳・翻訳ニーズ調査も進める予定です。また、企業との連携から、中学校卒業者で就職希望の生徒を対象としたインターンシップとその後の雇用に向けた試験的な枠組みを実現することができました。

（３）外国籍の若者のキャリア支援並びに上記に関する先進事例調査
内容：2016 年 10 月、山梨県甲府市の多文化リソースセンターやまなしを訪問し、同団体が運営する小規模保育施設「みんなのいばしょ」への視察を行いました。

成果：同施設のバイリンガル保育スタッフとの意見交換や視察を通じて、当施設の運営体制や現状を知ることができました。これらを参考に、常総市で外国籍住民も対象とした保育サービスをどのように実現できるか、保育スタッフとしてのキャリア形成の支援策を検討していきます。

３．参考資料

①参考写真
②外国人ピアサポーター・生活相談員養成講座のまとめ
③今後のピアサポーター・生活相談員の活動構想